第４回　庄原市地域水道ビジョン策定委員会議事録

日時　　：平成 25 年 8 月 5 日（月）　14:00～15:50
場所　　：庄原市役所５階　第１委員会室
配付資料：議事次第、委員会資料
出席者：委　員　松村貴江委員、藤原謙治委員、道下伸雄委員、落合祐一委員、
　　津秋なおみ委員、春田正治委員
　　神田茂生委員、高橋憲史委員、原田浩幸委員、橋本 温委員、
　　永田　猛委員、西尾宣孝委員、高橋弘文委員
　　事務局　水道課　滝口博章課長、柿本英生庶務係長、樽 克文工務係長、
　　山崎幸則係長、神垣浩平主事
　　東城水道室　塚原春雄室長、藤岡由夫東城水道係長
　　西城支所　山本浩樹主任技師
　　口和支所　松村 勇主任主事
　　高野支所　山下幹生主任
　　比和支所　加川元暁主任主事
　　総領支所　石原博行環境建設係長
　　事務局補佐
　　日水コン(株)　２名

１．開会挨拶

事務局。

２．委員の紹介

今年度交代委員の紹介

３．議事

①策定委員の交代について

滝口課長より説明。(質疑なし)

②水需要の将来予測について

日水コンより説明。(質疑なし)

③水道事業の財政見通し

日水コンより説明。(質疑なし)

④水道事業の将来像・目標について

日水コンより説明。

⑤意見・質疑等

委員　）水道事業の財政見通しによれば、簡易水道統合後に財政収支が３億３千万の赤字になることが予測されている。簡易水道は兼務職員が多く、例えば人件費などを削減できれば、統合後の赤字が減らせるのではないか。

事務局　）各支所の簡易水道担当者は、現在、水道以外の業務にも従事しているため、簡易水道からは一人分の人件費しか払っていない。ただし現実的には、維持管理費などの費用が嵩むので、今後どれだけ費用を削減していくかということに取り組んでいく。今回の水道ビジョン策定を契機に、更新計画などの様々な面を十分に精査したいと考えている。

委員　）平成 29 年の簡易水道統合によって発生する赤字は、一般会計の方で見てもらえるのかどうか、ここははっきり市の方と話をしていかないといけない。簡易水道の赤字を水道事業だけで抱えると、いつも料金改定を行わなくてはいけないということになると思うが。

事務局　）上水道の会計は独立採算制を原則としているため、水道料金で運営をまかなうことになっている。簡易水道は赤字補填分を全て一般会計に見てもらっているため、これが上水道に統合された場合、上水道の財政に大きな影響を与えてしまう。そのため、簡易水道統合を見据えて、一般会計からどれだけ繰入れしてもらうかという基準を作り直していく。

委員　）配水管の耐久年数はどのくらいなのか。

事務局　）配水管、水道管の耐用年数は管種にかかわらず、全国的に４０年と定められている。ただし、４０年という年数にこだわらず布設替は計画的に行っていく。更新計画については水道ビジョンの中で検討する。

委員　）２０１３年時点で２０何億という未更新の費用があるが、この老朽化施設の更新計画では５年で更新が完了するようになっている。簡易水道統合前に全て終わらせるという設定なのか。

事務局　）これはあくまでも概略の計算であることをご理解いただきたい。計画年数はビ

ジョンの検討を進める中で考えていく。

委員　）老朽管の対策は優先順位をつけてやらなくてはいけないが、施設更新の時期を延伸することも可能なのか。

事務局　）上水道は平成１９年に業者委託を行って計画的な施設更新を進めている。しかし簡易水道の方はあまり更新が進んでいない。特に西城支所は漏水が多く、緊急の課題となっている。実際に更新しないと「持続可能な」ということには到達できないので、長寿命的に修繕しながら更新を進めていくしかない。

委員　）現状のものを維持・管理・継続していくためには、拡張計画の見直しや凍結も考えていくべきではないのか。

事務局　）確かに、これからの投資は非常に難しいというのが現実だ。そのため国の補助金で行うような事業以外の拡張事業は難しいと話をしている。井戸ボーリング補助制度を見直してほしいという要望も出ているので、そういう方向での対応を今後検討していく。

委員　）有効無収水量の資料の中に公衆用便所用水などが挙がっているが、これは定額ででも水道料金を取ったほうがいいのではないか。

事務局　）庄原市の場合、公園や公衆用便所についても水道料金を徴収している。資料が見辛く申し訳ありません。

委員　）建設関係課と横の調整をして、道路改良と併せて水道管更新をやってはどうか。

事務局　）現在、道路改良や公共下水道の工事に併せて、水道管更新も行っている。
掛かった費用については負担金という形で入れてもらい、水道事業の負担にならないようにはなっている。

委員　）庄原市の水道は、地域的な課題を、上水道に全部押し付ける格好になっている。スケールメリットが無いため簡易水道が赤字になるのは当たり前である。８つもの簡易水道の赤字を水道料金に転嫁すると大変なことになるので、地方公営企業法の柔軟な運営を国に求めていってはどうか。

事務局　）簡易水道の赤字については、今まで一般会計から２億円程度補填してもらって

いた。我々としては簡易水道統合以後も赤字補填分は引き続きお願いしています。国に対しての要望は日本水道協会が出しているが、実際には難しいと思う。

委員　）将来像と目標の設定というところで当然ダウンサイジングという話になってくると思うが、ビジョンの中でダウンサイジングしたときにどうやって安全性を担保するのかという項目については必ず考えてもらいたい。

事務局　）ダウンサイジングについて、水質と量は一番大きな項目であり、危機管理にも直結してくる。今後最終的なまとめに向けて熟考していく。

委員　）ワークショップを開いて将来像を作っているのはとてもすばらしい。それにより供給者側の合意形成は出来たと思うが、一方で受給者がどのような要求を持っているのかということに関してワークショップを開催しても良いと思う。

事務局　）市民の意見を聞くために当初アンケートを取っているが、厳しい意見や難しい要求も出ている。最終的には水道ビジョンのまとめの時に、市民の意見を聞く場を設けたいと思っている。

委員長　）さて、本日の策定委員会では現状を明らかにして討論を行った。今後は具体的な方策に移してもらって、それを策定委員会で議論してまとめていくことになる。それではこれで議事を終わりたいが如何か。

事務局　）最後に将来像について事務局からお伺いしたい。将来像を「未来につなぐ里山の水～みんなで支える安心･安全な庄原の水道～」、目標を「安心、安定、持続、環境」というものにしたが、これでよろしいかご意見をいただきたい。

委員長　）庄原でうまくまとめていると思うが如何か。

委員　）すばらしい。里山というのは時勢にも合っている。

事務局　）ありがとうございます。それでは、この将来像で進めさせていただく。

委員長　）ではこのくらいで締めてよろしいか。本日は具体的な議論ができて、今後の方針がある程度見えてきたように思う。いろいろな要望も明らかになったし、今後検討していきたい。
それではこれをもって第４回庄原市地域水道ビジョン策定委員会を終了する。